



— 巻頭言 —

大会長挨拶

第24回総会学術大会のご案内

大会長 福喜多 博 義

第24回総会学術大会は平成16年7月24日（土）、25日（日）の2日間、千葉市文化センターで開催させていただきます。大会のメインテーマを「融合から創造へ」～新しい核医学技術を求めて～とし、全国から多数の会員に参加していただき、医療の変革期の中でこれからの核医学技術の更なる発展を求めて議論し、有意義な大会であるよう期待しています。

特別講演Ⅰとして袁島聡先生（シアトルワシントン大学教授）には、「医療改革の中での核医学と核医学技術開発」と題して、国際的な視点から核医学そして核医学技術の現状について講演して頂きます。また特別講演Ⅱとして岡野光夫先生（東京女子医科大学先端生命医学研究所所長）には、「細胞シート工学を基盤とする再生医療」と題して、最先端医療の現状を講演していただきます。再生医療は移植医療や遺伝子医療と並んで最近注目されている分野であり、次世代医療が核医学とどの様な係りを持つか将来を展望する良い機会と思われまふ。海外招待講演として Lyn M. Mehlberg 先生（SNMT 会長）には「Honoring the Past and Embracing the Future: An SNM Update」と題して、核医学分野では世界最大の規模である米国核医学会の歩みと今後の活動について講演していただきます。本学会の将来展望そして本学会と日本核医学会との関係について考えるとき、SNM と SNMT との連携を参考にする良い機会となることでしょう。文化講演として、西尾文彦先生（千葉大学環境リモートセンシング研究センター教授）には「南極は人類の宝物、そして人類の未来を写すかがみ」と題して、温暖化現象など環境破壊に対する地球規模での環境改善の取組みについて講演していただきます。西尾先生は元南極越冬隊の隊長をされた経験をお持ちで、我々の分野とは異なった、興味ある話がうかがえることと思われまふ。

教育講演として木下富士美先生（千葉県がんセンター核医学診療部技師長）には、「放射性医薬品が付着した固体状医療放射性廃棄物の望まれる管理とは」と題して、講演していただきます。卒後教育プログラムの基礎講座Ⅰとして熊野信雄先生（国際医療福祉大学保健学部放射線・情報科学科教授）には「核医学画像診断機器の現状と今後の展望—性能管理を中心に—」と題して、また小野口昌久先生（金沢大学医学部保健学科放射線診療技術講座助教授）には「技師のための放射性医薬品—製剤の挙動と体内分布の観点から—」と題して、技師として基本となる内容についてご講演していただきます。

シンポジウムとして「核医学技術の EBM を考える」をメインテーマにしています。医療技術者が EBM をどのように実践できるかを、基調講演に佐々木雅之先生（九州大学医学部保健学科教授）をお招きして、放射線治療部門や看護部門の現状を参考にして討論していただくことにしています。

一般研究発表には会員の皆様から80題を超える演題を頂きました。そして、20演題群の中には新しく学生セッションを設けましたので、準会員制度を十分に活用していただければと願っています。

今回の学術大会は、市民の方にも核医学検査を理解していただくため、市民公開講座を設けています。また千葉市からのご協力を得て、千葉市共催で開催することになりました。特に今話題となっている PET 検診について宇野公一先生（医療法人社団清志会 西台クリニック院長）には「核医学検査の中の PET—PET 検診を中心に—」と題して、PET 検診の有用性について市民の方にもわかり易く講演していただきます。昨年から千葉市内の山王病院でも PET 検診が開始されましたが、今後千葉県内でも PET 装置を導入する施設が増加するものと思われまふ。市民の方にも「PET 検査って聞いたことがありますか」をキーワードにして、より正しく PET 検査を理解していただくため、PET 展を設けています。講演と展示により、きっと市民に満足していただく市民公開講座となると確信しています。

今回は千葉県開催ならではの企画を立てました。開催前日の午後から日本メジフィジクスと第一ラジオアイソトープ研究所の工場見学を企画しています。毎日病院に届けられる放射性医薬品がどのように製造され配送されるかを見る良い機会ではないでしょうか。新人技師の方には是非参加していただければと思っています。

このように2.5日間の過密スケジュールですが、夏休み期間中でもありますので、勉強の後はディズニーランドや千葉マリンスタジアム、そして少し足を伸ばして海水浴へと、家族揃って千葉を満喫していただけることを願い実行委員一同お待ち申し上げます。